

新型コロナワクチン接種

問 保険健康課ワクチン接種推進班
☎24 - 1111内線3131・3161

正しく理解し、接種の判断をしましょう

9月9日(休)より12歳以上の人のワクチン接種が可能となりました。若いから接種しなくても大丈夫と思わず、正しい知識をもって接種するかどうか判断しましょう。

ネット予約はコチラ



新型コロナワクチンの効果

効果1 感染を防ぐ

ワクチンを接種することで感染を防ぐことができれば、周りの人に感染を広げることもありません。

「感染しても重症化しない」「接種しなくても大丈夫」などと思っている人がいるかもしれませんが、自分の家族や周りの人を感染から守ることにあります。

効果3 重症化しにくい

ワクチン接種後に新型コロナに感染した人は、ワクチン未接種で感染した人に比べ、次のことが分かっています。

- ▶ 排出するウイルス量が少なく、排出期間が短い
- ▶ 全く症状のない割合が高い
- ▶ 症状のある期間が短い

ワクチンの副反応

接種後に注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、悪寒、下痢、発熱などがみられることがあります。接種した1～2日後に副反応が出現することがありますが、ほとんどは3日以内に回復します。

効果2 発症を防ぐ

65歳以上のワクチン接種が進み、感染者数が明らかに減少しています。

3/22～6/30	32	90歳以上	2	7/1～8/11
	57	80歳代	5	
	126	70歳代	4	
	75	65～69歳	4	人
290人(全体の17.36%)		陽性者数		15人(全体の2.67%)

効果4 周囲に広げにくい

職場や家庭内に感染を持ち込む例も見られています。家族が接種することで、間接的に接種していない子どもを守ることにつながります。

ファイザー社製ワクチンの副反応と頻度

- ▶ 接種部位の痛み、疲労、頭痛：50%以上
- ▶ 筋肉痛、悪寒、関節痛、下痢、発熱、接種部位の腫れ：10～50%
- ▶ 吐き気、嘔吐：1～10%

気になる質問

妊娠中、授乳中、妊娠計画中はワクチン接種できますか？

できます。新型コロナワクチン(mRNAワクチン)が妊娠、胎児、母乳、生殖器に悪影響を及ぼすという報告はありません。

ワクチンを接種したら、感染予防策をやめていいですか？

接種後でも感染防止効果は、100%という訳ではありません。また、どれくらい感染の広がりが抑えられるかは十分明らかになっていません。引き続き、感染予防策の継続に努めましょう。

いつから効果があるの？

1回目接種から2週間後に効果が出始めます。2回目接種後7日目以降から十分な免疫ができるとされています。1度感染してもワクチンに比べて得られた免疫は弱い可能性があるため、接種することが望ましいです。

若い世代の人へワクチン接種のお願い

宇和島医師会

高齢者の新型コロナワクチン接種が完了し、若い世代にも接種が広がってきています。ワクチンの予防効果は90%以上あり、非常に高いことが分かっています。ワクチンは感染を100%予防することはできませんが、感染拡大を抑え、重症化を防ぐことができます。ひいては医療の負担を軽減し、地域医療を守ることができます。

ワクチン未接種の若い人が重症化し、亡くなられた事例もあります。特に、20～30代の若い世代の人は、接種をお願いします。小児の感染も広がってきており、12歳未満の子どもがいる家庭は、接種をお願いします。また妊婦の場合、重症化のリスクが高いため接種をお勧めします。授乳中は、子どもにワクチンによる抗体が移行するので安心して接種することができます。

ワクチンのメリットと副反応のリスクを天秤にかけると圧倒的にワクチンを接種した方が良いです。対象のすべての人が接種できるように、我々は全力を尽くしますので、皆様のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

愛顔の安心飲食店認証制度

県が定める新型コロナウイルス感染症予防対策の基準に適合している飲食店を認証する愛顔の安心飲食店認証制度の申請を受け付けています。登録すると「認証ステッカー」が交付され、公式サイトで店舗名と取り組みが紹介されます。

- 対 県内の店舗
- 申 WEBサイトの申請フォームで申請するか申請書を郵送
- 問 〒790-8686 松山市湊町7丁目7番地1 愛顔の安心飲食店認証制度事務局(セキ株内) ☎089-945-3280 ✉info@ehime-anshinninsyo.com

